東京ベイエリアビジョン(仮称)ワーキンググループ(第2回)

次 第

日時:平成30年10月30日(火) 15時~ 場所:第二本庁舎 31階特別会議室21

- 1. 開会
- 2. 報告事項

第1回官民連携チーム会議の開催について

- 3. 議事
 - (1) 2040年代の社会経済状況について
 - (2) 東京ベイエリアの特徴について
 - (3) その他
- 4. 閉会

(配布資料)

資料1 第1回官民連携チーム会議 資料

資料2 2040年代の社会経済状況について

資料3 東京ベイエリアの特徴

資料4 東京ベイエリアビジョン(仮称)検討の進め方

資料 1

第1回 官民連携チーム会議の開催について

「東京ベイエリアビジョン」(仮称)の 策定について

東京ベイエリアビジョン(仮称)の策定にむけて

資料1

基本コンセプト

① 東京、日本の今後の成長を創り出す場所として、東京ベイエリアを世界に発信する

- ✓ ライフ、ビジネス、エンターテイメントが融合した世界でも最先端のまちづくり
- ✓ 東京2020大会を起点とした成長戦略を策定し、新たな産業や投資を呼び込む
- ✓ 人々が集い交流し、人生が豊かになる場所として発展させる

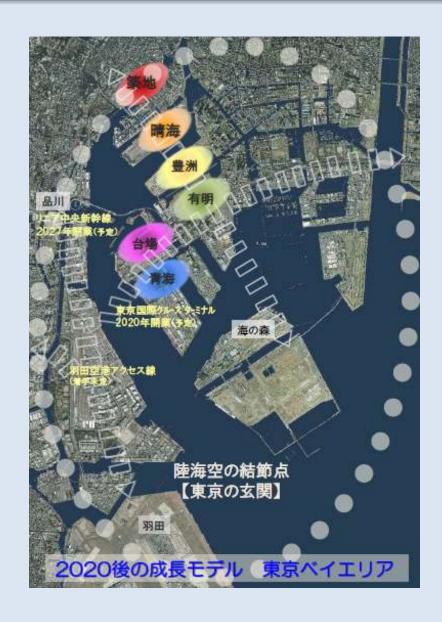
②東京ベイエリアを鳥の目で俯瞰し、各地域の特色をより活かす

- ✓ 築地、晴海、有明・青海地区など各エリアの特徴を踏まえたビジョンを明らかにする
- ✓ 臨海地域全体を総合的に捉えることで、交通網の整備をはじめ、各エリアが有機的に連携できる姿を新たに描き出す

③ 官民連携のもと、次世代を担う若手の視点や 自由な発想を活かす

- ✓ ビジョンを考える民間のプロフェッショナルを募集
- ✓ 都庁の若手職員とともに臨海地域の将来像を検討
- ✓ 行政の枠を超えた発想、手法を積極的に取り入れる新しい取り組み

東京ベイエリアビジョン(仮称)の対象地域





官民連携チームについて

資料1

「東京ベイエリアビジョン」(仮称)が掲げる将来像への提案 役割:

「東京ベイエリアビジョン」(仮称)庁内検討委員会



活用提案

ベイエリア未来創造チーム(仮称)

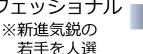
<総括会議>

【役割】 チーム全体の総合調整

- 【構成メンバー】・コーディネーター:村木美貴 教授(都市計画)
 - ・若手有識者: 中島直人 准教授、岡村祐 准教授、松尾豊 准教授

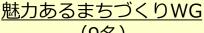
行政の枠を超えた 自由な発想による ワーキング グループを結成

民間のプロ フェッショナル



都庁若手職員等

※将来を担う若手を 各局から人選



(9名)

座長 岩手有識者

中島直人 准教授(都市工学)

(建築家)

○田根剛

(開発プランナー)

- ○佐藤堅志郎 [三井不動産]
- 〇毛井意子 [三菱地所]
- ○側嶋秀明 [住友不動産]
- ○赤堀泰郎 [森ビル]

(都庁若手職員:3名)

活力と躍動感のあるまちWG

(7名)

座長 岩手有識者!

岡村祐 准教授(観光まちづくり)

(アートディレクター)

○森本千絵

(外国人有識者)

○シリル・コピーニ

(イノベーター)

○谷中修吾

(都庁若手職員:3名)

最先端技術のまちWG

(8名)

座長 岩手有識者

松尾豊 准教授(技術経営)

(メディアアーティスト)

○落合陽一

(起業家)

○西川徹

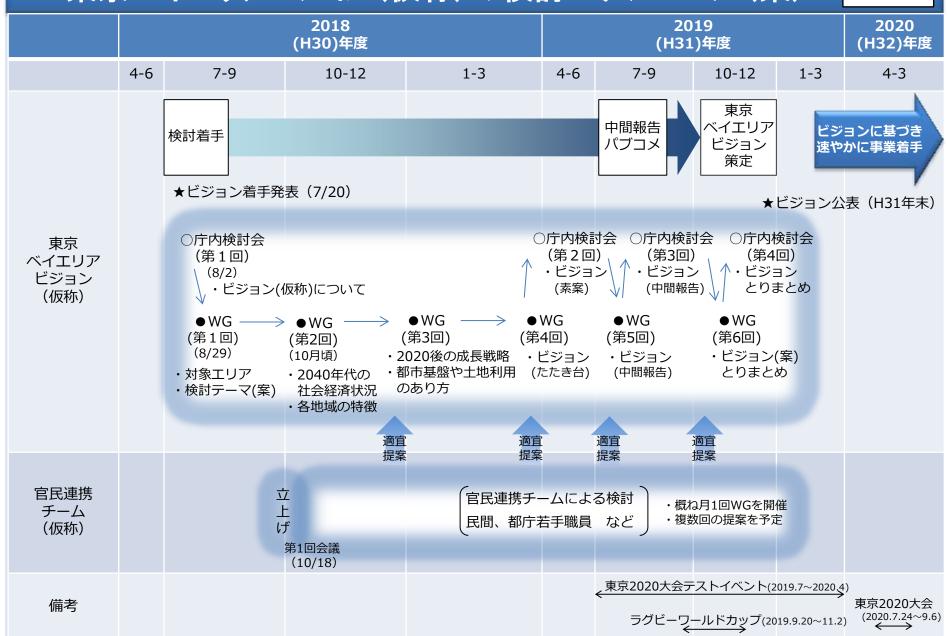
(起業家・起業家支援)

○槌屋詩野

(都庁若手職員:4名)

東京ベイエリアビジョン(仮称)の検討スケジュール(案)

資料1



東京ベイエリアビジョン(仮称)の策定に向けた検討体制

庁内検討委員会

会長	多羅尾副知事					
副会長	長谷川副知事					
幹事	政策企画局長					
	都市整備局長					
	港湾局長					
委員	関係局部長級					
	〇 政策企画局					
	〇 都市整備局					
	◎ 港湾局					
	総務局					
	財務局					
	生活文化局					
	オリンピック・パラリンピック準備局					
	環境局					
	福祉保健局					
	産業労働局					
	中央卸売市場					
	建設局					

交通局

○=事務局(◎は主管)

ワーキンググループ

座長	都市整備局都市づくり政策部長				
副座長	港湾局臨海開発部長				
構成員	関係局課長級				
	◎ 都市整備局				
	〇 港湾局				
	政策企画局				
	財務局				
	オリンピック・パラリンピック準備局				
	環境局				
	建設局				
	※ 総務局				
	※ 生活文化局				
	※ 福祉保健局				
	※ 産業労働局				
	※ 中央卸売市場				
	※ 交通局				
○一重茲	見(のけ主答)				

資料1

○=事務局(◎は主管)

※は拡大メンバー(関連する事項がある場合に出席)

官民連携チームの検討成果をワーキンググループの検討に反映

〇官民連携チーム(仮称)

政策企画局主管で設置

これまでのベイエリアの変遷について

埋立地の変遷



埋立の年代と主な出来事



江戸時代~ 昭和初期



昭和30年代から埋立が本格化。 当時の主な埋立需要は、

- ①エネルギー基地(豊洲)
- ②都市化に伴う事業者移転先(新木場への 木材業者等)
- ③廃棄物処分場(夢の島) など



昭和40~50年代、沖合の埋立地に④品川・⑤ 大井コンテナターミナルなど港湾施設を本格的 に整備。

背後地を含め、現在に至るまで港湾・物流用地 として活用。



昭和60年代からは、埋立は主に⑥羽田沖合拡張 と⑦中防内・外。

一方、港湾施設の沖合展開の進展やエネルギー 関連工場の移転により、昭和60年頃から現在の 臨海副都心(台場、青海、有明)、豊洲等の都 市的利用の機運が高まる。

臨海地域の変遷

昭和30年代







昭和40 ~50年代





現在





臨海地域の現況と土地利用



	時期	行政計画	出来事	説明
7番目の副都心として開発を	1985年(昭60)	「第二次東京都長期計画」		・都心部への一点集中による用地不足や地価高騰など への対策として「多心型都市構造」への転換を志向
スタート	1989年(平元)	「臨海副都心開発事業化計画」		・国際化・情報化の拠点整備と併せ、職と住の均衡の とれた未来型都市の建設へ (就業人口:11万人、居住人口:6万人)
~	1993年(平5)		レインボーブリッジ開通	
	1995年(平7)		ゆりかもめ運行開始 世界都市博覧会の中止決定	
	1996年(平8)		りんかい線運行開始 東京ビッグサイト開業 デックス東京ビーチ開業	
バブル経済の崩壊による進	1997年(平9)		フジテレビ本社開業	
出予定者の撤退などを背景 として、計画を大幅に見直し 会計統合、土地処分方法の	1997年(平9)	「臨海副都心まちづくり推進計画」		・バブル崩壊後の経済状況の中で、巨額のインフラ整備費が問題に・開発規模を縮小するなど計画を見直し (就業人口:7万人、居住人口:4.2万人)
工夫や積極的な営業活動な どを行い、財政を立て直し	1999年(平11) 2001年(平13) 2002年(平14)	「東京の新しい都市づくりビジョン」「東京ベイエリア21」	ヴィーナスフォート・メガウェブ開業 三会計統合 土地の売却方式の導入 りんかい線全線開業 (~大崎)	 経済不況や不動産市況の低迷を受け、開発を支える 臨海副都心開発事業会計の財政悪化 ・財政基盤強化に向けた取組を実施 (会計統合、新たな土地処分手法(売却方式)の導 入、区画の細分化、土地利用計画の変更など)
_	2003年(平15)		大江戸温泉物語開業	_
-	2006年(平18)		ゆりかもめ延伸(~豊洲)	*
	2009年(平21)	「東京の都市づくりビジョン(改定)」		(現在の財政状況:今後の起債償還予定1,873億円 と同程度の資金を確保済み)
東京2020大会の開催決定	2012年(平24)		ダイバーシティ東京開業	CINE及少員並と睡休内ツ//
を受け、臨海部に競技会場 を計画	2013年(平25)		東京2020オリンピック・パラリン ピック競技大会開催決定	・大会による用地の需要に備えて土地の公募を停止
水辺の立地を活かして、個 性あるまちづくりを目指す	2017年(平29)	「都市づくりのグランドデザイン」 策定		・臨海部を中枢広域拠点域に位置付け、都心部と一体 的に発展

ベイエリアのこれまでのまちづくり

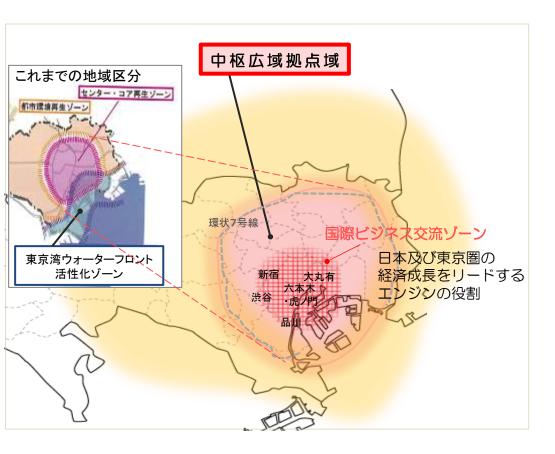


- ◆まちづくりに関する計画等
 - ・臨海副都心まちづくり推進計画
 - ·豊洲·晴海開発整備計画
 - ・豊洲1~3丁目まちづくり基本方針
 - ・羽田空港跡地まちづくり推進計画

- ◆水と緑に関する計画等
 - ·都市計画公園·緑地の整備方針
 - 運河ルネサンス
 - ・海上公園ビジョン

<新たな地域区分>

都心部と臨海部の一体的な発展のため、これまでの2つのゾーンを統合



- ※ 隣り合う地域区分の境界域は、相互の地域特性が緩やかに変化・融合しながら連続性を持ってい
- ※ ゾーンの範囲は、都市機能の集積状況や社会経済情勢等の変化に対応しながら変容し得る

〇中枢広域拠点域

- 高密な道路・交通ネットワークを生かした 中核的な拠点
- ・国際ビジネス、文化・芸術、スポーツなど の多様な個性がある拠点を形成
- ・グローバルな交流により 新たな価値を創出

(臨海部)

- ・公共交通の充実等によって、**区部中心部と強く** 結ばれている
- ・区部中心部の大規模な公園が臨海部の緑や水と つながる
- ・四季の彩や水辺の潤いが区域全体に広がっている
- ・各所に様々な**スポーツを楽しめる空間や歩行者** 空間がある
- ・穏やかで魅力的な生活の実現に寄与

平成30年10月18日 第1回官民連携チーム会議資料4 「都市づくりのグランドデザイン」における位置付け

都市づくりの具体的な取組

東京2020大会の競技施設を様々な角度から生かす

周辺まちづくりとの連携も進め、 にぎわいの創出につながる面的に広がりのあるレガシーを形成

取組

臨海部を新たな一大スポーツゾーンにする

- ■「有明レガシーエリア」がスポーツ・文化の拠点となっている
- ■辰巳・夢の島周辺の「マルチスポーツエリア」でスポーツを楽しめる
- ■海の森・若洲・葛西周辺の「ウォータースポーツエリア」で 水上スポーツを体験できる

水辺を楽しめる都市空間を創出する

多くの人でにぎわう水の都を再生

取組1

水辺に顔を向けたまちづくりを推進する

- ■水辺の軸が都市の魅力を高めている
- ■河川・運河沿いがにぎわいと憩いの空間になっている

取組2

観光や身近な移動としての船旅を定着させる

- ■誰もが舟運を楽しめる舟運ネットワークが形成されている
- ■船着場周辺ににぎわいが生まれている

○アクアティクスセンター周辺の整備イメージ



○水辺に顔を向けた整備イメージ



○にぎわいの創出

